

がん安心 ハンドブック

がん医療のことを知りたい…
こんなときどこに相談するの？



都道府県がん診療連携拠点病院

福井県立病院



がん相談支援センター



県立病院 HP

P 2

がん相談・サポート

- がん相談支援センター
- 当院の専門スタッフ
- サロン「きのの」
- AYA世代サロン

P 7

がんの治療

- がんの治療の目標や治療法
- 手術療法
- 薬物療法
- 放射線治療
- 陽子線治療
- がんゲノム医療
- 遺伝外来
- 緩和ケア
- がんのリハビリと食事
- 小児がん

P 24

がん診療連携

- 福井県立病院



がんになると わからないことばかりで不安…



患者さんやご家族から、
「困っていてもどこに相談したらよいかわからない」
「相談できることを知らなかった」
などの声をお聞きすることも少なくありません。

まさか
自分が…

これから
どうしよう…

仕事は
どうしよう…

どこに相談
すれば
いいのか…

がん相談支援センター

「がん相談支援センター」は、全国のがん診療連携拠点病院等に設置されている「がんの相談窓口」です。皆様のがんに関する様々な相談ごとや心の悩みに、どなたでも無料でご利用いただけます。

相談された内容は、ご本人の了解なしに、担当医をはじめ、他の方に伝わることはありません。匿名で相談することもできます。

HPはこちら



相談日	月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）
時間	8時30分～17時00分
相談対象	当院での受診にかかわらず、どなたでも
利用方法	<p>対面 がん医療センター内 がん相談支援センターに お越しく下さい（裏表紙参照）</p> <p>電話 0776-54-5151（内線3100） 「がん相談」とお伝えください</p> <p>オンライン 右記QRコードからお申込みください 後日、オンライン相談用URLをお送り します</p>
相談料	無料



オンライン相談
申込み



ひとりで 悩まないでください

どんなことでもご相談ください



よくあるご相談

1. 自分の病気や治療の説明を聞いたがよくわからなかった

突然の告知、初めて聞く言葉ばかり。何がわからないのかもわからない、という声は少なくないです。

皆さんの疑問にわかりやすくお答えします。

※診察時にがん専門相談員も同席し、医師の話と一緒に聞くことができます。



2. 不安や気持ちの落ち込み

ショックを受けることも落ち込んだり心配したりするのも当たり前のことです。

誰かに話をすることで心が軽くなったり、心の整理ができることもあります。たとえ解決できなくても、いつでも話ができる場所を知っていることは大切なことです。



3. がんの治療のため、副作用があったり髪の毛が抜けると言われたら

生活面への影響や頭皮ケアのご相談をお受けしています。個室の相談室があり、ウィッグの試着ができます。脱毛後の帽子やウィッグの選び方などのご相談をお受けしています。

脱毛時用のタオルケア帽子を無料でお渡ししています。

(「タオルケア帽子の会」様から寄贈)



タオルケア帽子

がん患者アピランスサポート事業 ———— 窓口 お住まいの市町担当課

がん治療による外見の変化を補うための医療用ウィッグや補整下着等の購入費の一部助成があります。



4. 医療費はどのくらいかかるの？

高額療養費制度があり、年齢や所得状況により、1か月(1日から月末)の自己負担限度額が定められています。

ひと月いくらくらいになるかなど、ご相談をお受けしています。



5. 仕事は続けられる？

仕事と治療を両立している患者さんはたくさんいます。働くことは生活や治療継続のためだけでなく、生きがいや生活の質を保つことにもつながります。

仕事を辞めると決めてしまう前に、どのようなことが問題なのか、使える社会保障制度があるのかを一緒に考えます。



● 両立支援 コーディネーター に相談

- ・ 平日
(祝日、年末年始を除く)
8:30～17:00
- ・ 予約不要

● 「お仕事の悩み相談会」 毎月第1火曜日

福井県産業保健総合支援センター、
ハローワーク福井の専門スタッフが来院

- ・ 10:00～13:00 (社会保険労務士)
- ・ 13:15～14:15 (就職支援ナビゲーター)
- ・ 予約優先 がん相談支援センターにご連絡いただくか
QRコードからお申込みください

申込みは
こちら



6. 自宅で療養生活を送るには どうしたらいいの？

在宅介護や在宅医療、地域の相談先などの情報提供や
困りごとのご相談をお受けしています。



7. 同じ病気の人と話したい

サロン「きねの」やAYA世代サロンは、患者さんや
ご家族のくつろぎと交流の場です。(P6)
同じがんの治療をしている方の話を聞くことができます。

お気軽にお越しください



8. その他

Q. 限度額適用認定証(高額医療費制度)は必要？

- A. 当院では不要です。
毎月月初めの受診の際に、マイナンバーカードを
利用するか、受付事務にお申し出ください。

手続きの方法や場所は
いつでもお尋ねください

Q. 先生に診断書等を書いてもらいたい

- A. 本棟1階にある「E窓口 診断書等」にお申し出ください。
作成までに2週間かかります。費用は実費となります。
※自宅に書留で送ってもらうことができます。
申込み時に診断書等と書留代の支払いが必要です。



当院の専門スタッフ

当院には、各分野の専門知識と技術を持ったスタッフが
おります。

連携して皆様を支えますのでご活用ください。



● がん看護専門看護師

- ・ 病気や療養生活の不安に対するサポート
- ・ 人生会議 (ACP) など



● がん化学療法看護認定看護師

- 薬物療法 (抗がん剤) に関連した
- ・ 治療の内容
- ・ 副作用とその対処法
- 吐き気や脱毛、便秘など



● 乳がん看護認定看護師

- ・ 手術の方法や術後の下着
- ・ リンパ浮腫のケアの方法
- ・ 副作用に関することなど
- ・ 放射線や薬物療法について



● 皮膚・排泄ケア認定看護師

- ・ 皮膚のトラブルや床ずれ
- ・ ストーマや排泄に関する困りごと



● 緩和ケア認定看護師

- ・ 患者、その家族が対象
- ・ 体や心のつらさを緩和します
- ・ ゆっくり傾聴支援します



● がん性疼痛看護認定看護師

- ・ 痛みで困っていること
- ・ お薬の量や飲み方、飲む時間など



● がん放射線療法看護認定看護師 P14

- ・ 放射線治療の方法
- ・ 照射による皮膚症状とケア



● がん専門薬剤師 P11

- がんに関する薬剤
- ・ 効能や副作用
- ・ 飲み方など



● 管理栄養士 P22

- ・ 食欲不振などの副作用に応じた食事の工夫
- ・ 栄養補助食品の提案



● リンパ浮腫専門看護師・理学療法士

- ・ 浮腫の状態に応じたケア
- ・ 浮腫に応じた着衣の選定
- ・ 第2, 3, 4 木曜日午後実施





サロン「きねの」

～くつろぎと交流の場～

がんの患者さんなら
どなたでも

がんの患者さんやご家族のくつろぎと交流の場として、平成22年1月から、サロン「きねの」を毎月開催しています。

「きねの」は、嶺北地方の方言で「お越してください」という意味です。

実施月	原則第4木曜日 13時～14時	
対象	がん患者さん、ご家族、ご友人ならどなたでも 他の医療機関で治療を受けている方も参加できます	スケジュール
場所	本棟3階 多目的室1または講堂	
内容	ミニ講座、フリートーキング、リラクスの体験など	
参加料	無料	
申込み 必要です	がん相談支援センターにご連絡をいただくか、 申込み用 QR コード等でお申込みください。	
	がん相談支援センター ☎ 0776-54-5151(内線 3100)	

※日時・場所は、変更になることがあります。事前にお問い合わせください。



AYA(アヤ)世代サロン

福井県立病院では、2018年からAYA(アヤ)世代のがん患者さんを対象にしたサロンを開催しています。

病気や治療費のこと、仕事や恋愛、結婚など、他の人はどうしている？ どう考えている？ など、若いがん患者さんならではの「あるある」話を一緒にしてみませんか。

●AYA 世代とは

Adolescent and Young Adult(思春期・若年成人)の頭文字をとったもので、主に思春期(15歳～)から30代までの世代を指しています。

(出典:国立がん研究センター がん情報サービス)

実施月	不定期開催
対象	おおむね 15 歳～40 歳前後のがんを経験した方、ご家族、ご友人
場所	福井県立病院
内容	フリートーキング
参加料	無料
問合せ先	がん相談支援センター ☎0776-54-5151(内線 3100)

がんの治療の目標や治療法

日本人が一生のうちのがんと診断される確率は、男性63.3%、女性50.8%であり、日本人のおおよそ2人に1人はがんと診断されることになります。

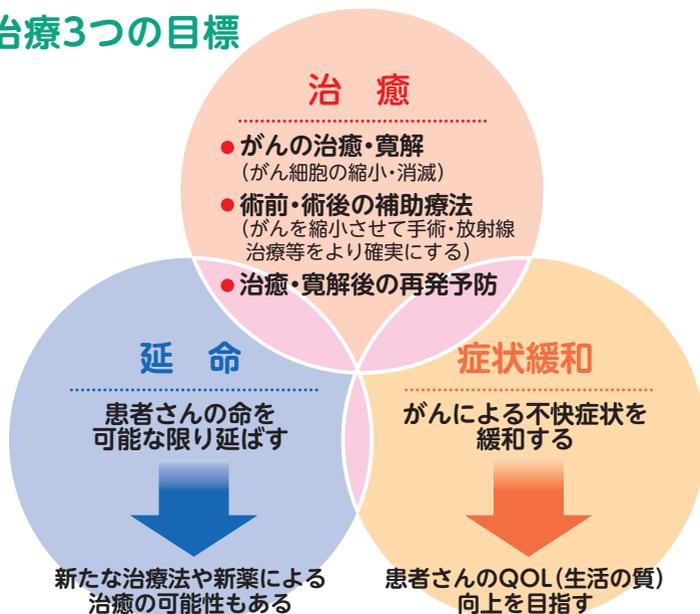
国立がん研究センター がん情報サービス

最新がん統計

検索



がん治療3つの目標



がんと診断された際ですが、治療目標は、3つに分けられます。

治癒 完全になんかを治す

延命 できるだけ長生きする

症状緩和 がんに伴う症状を軽減させる

通常、がんと診断されると、まずは、がんを完全に治すこと(治癒)を考えますが、実際になんかの治療目標をどこにおくかは、診断された時点でのがんの状態と患者さんの全身状態によって左右されます。また、治療を行っていく過程で、治療目標が変わることもあります(たとえば、治療目標を延命にしていたものの、予想以上に治療効果があり、がんが治癒する可能性も出てきたなど)。

少子高齢化とともに、多様な人生観も尊重される時代となっています。がん患者さん一人一人の治療目標達成に向け、当院スタッフも力になりたいと思っています。

院長
道傳 研司



がんの治療法

局所療法

全身療法

手術療法
(P9・10)

放射線治療
(P13・14)
陽子線治療
(P15・16)

薬物療法
(P11・12)
抗がん剤治療
分子標的薬
免疫チェックポイント阻害剤
ホルモン療法

病気のタイプに適した治療を実施

一方、がんに対する治療法は、**手術（内視鏡的切除含む）**、**薬物療法（化学療法など）**、そして、**放射線治療（陽子線治療含む）**の3つに大きく分けられます。これらの治療法単独で治癒を目指す場合もあれば、2つ以上の治療法を組み合わせ、治癒を目指すこともあります。がんの治癒が難しい場合も、延命のため、あるいは、症状緩和のため、それぞれの治療法を単独あるいは組み合わせ、治療目標の達成を目指します。

さて、薬物療法に関しては、つい最近まで、患者さんのがんがどの臓器由来であるかで、使用する薬剤が決まっていました。しかし、最近では、がんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ、明らかになった遺伝子変異の情報をもとに、臓器横断的に治療を行うがんゲノム医療が行われるようになりました。当院もがんゲノム医療連携病院に選定されており（P24）、県民の皆さまのがんゲノム医療の一翼を担っています（P17）。

がん患者さんが質の高い日常生活を送りながら、がんの治療を継続して受けていくためには、がんによる肉体的あるいは精神的な問題に対しての緩和ケアも重要です。また、相談支援、情報提供、就労支援などといった、側面からの患者さん支援もなくてはならないものです。当院では様々な関係スタッフが使命感をもって患者さんやご家族のお手伝いをさせて頂いております。

本冊子が、治療を受けられるがん患者さんの一助になれば、幸いです。

手術療法



HPIはこちら

がんになってしまい、治療が必要になった場合の**治療法**としては、**手術や内視鏡による切除、薬物療法、放射線治療(陽子線治療含む)**があります。概して、より早い段階で発見されたがんに対しては手術や内視鏡による切除、少し進んだがんに対しては手術による切除、もう少し進んだがんに対して放射線治療や抗がん剤を併用した手術が行われています。がんを治すには、できるだけ早い段階でがんを発見することが重要です。

手術によるがんの切除

がんが発生した臓器や、がんの状態にもよりますが、がんを完治させるためにはがんを完全に切り取る(切除する)方法が最も確実な治療法です。しかし、がん細胞は増殖していく過程で周囲の臓器を侵食していったり(がんの浸潤)、近くのリンパ節に流れ着いたり(リンパ節転移)、あるいは、遠く離れた臓器に流れていき、そこで大きくなったりします(がんの遠隔転移)。手術を行う場合、**一般的にはがんとその近くのリンパ節が切除の対象**となります。また臓器によっては遠隔転移も手術で切除する場合があります。がんの塊の周囲には目に見えないがん細胞が広がっていることも多く、がんを切除する際には、がんの周囲の一見、正常な部分もいっしょにつけて切除しなければなりません。そのため、がんの手術を行うことで、がんとは直接関係のない周囲臓器の機能を低下させてしまうことがあります。

手術方法の進歩

福井県立病院は9か所のロボット支援手術を実施
食道、胃、直腸、膀胱、肝臓、前立腺、腎臓、尿管、腎盂

以前よりがんの切除のために開胸や開腹手術が行われてきましたが、現在では**腹腔鏡手術や胸腔鏡手術**が普及し一般的な手術方法となっています。腹腔鏡手術や胸腔鏡手術では、痛みを感じる腹壁や胸壁の創部が小さいため、患者さんの**早期退**



食道がん



直腸がん

ロボット支援手術中の外観
胸部や腹部に挿入した鉗子にロボットを接続して手術を行います。術者は、外からロボットを操作します。

できるだけ小さな負担でがんを治すことが目標です。抗がん剤・放射線も併用しながら、ロボットなどの先端技術によって手術の負担ができるだけ小さくなるように心掛けていますので、一緒に頑張りましょう。

副院長
二宮 致



院や早期社会復帰が可能となっています。特に、大腸がん・胃がん・食道がん・肺がん・肝がん・膵がんの多くの患者さんが腹腔鏡や胸腔鏡の手術の恩恵を受けています。腹腔鏡や胸腔鏡による鏡視下手術では、患者さんへのメリットが大きいものの高度な技術が必要となります。近年はこれらの鏡視下手術にロボットを併用する**ロボット支援手術**が認可され普及してきました。ロボット支援手術では、内視鏡手術と違い3次元モニター下に多関節を持った鉗子を用い、手振れ防止機能もあるため、**深部で細かな操作が可能であり、がんの安全な切除に有用**です。



患者側での操作
(助手が鉗子を出し入れます)



コンソールの操作
(術者がロボットを操作します)



モニター上での手術指導
(画面上に指示が表示されます)

放射線治療や薬物療法による手術成績の向上

一方、早い段階でがんを発見できなかった患者さんの手術を行う場合、放射線治療や薬物療法の助けが必要になることがあります。近年の放射線治療や薬物療法の進歩は著しく、放射線治療や薬物療法の効果によってがんが小さくなり、当初手術をあきらめていた進行がんでも手術が可能になったり、手術の際にがん周囲の臓器に大きく切り込まずに済む(周囲臓器の機能を低下させなくて済む)場合も増えています。

手術を行うにあたり

手術技術や手術器械の進歩に加えて新たな抗がん剤の開発や放射線治療機器の進歩によって、手術で助かる患者さんが増え、さらに、手術を受ける患者さんの負担が軽減してきていることは間違いありません。それでも、手術を受ける際、患者さんには大きな決心が必要です。当院では、**多職種の医療スタッフが参加するカンファレンス(カンサーボード)**で治療法の問題がないか確認した上で、**手術術式を最終決定**しています。これからも、患者さんの決心が十分に報われるよう、努力して参りたいと思っています。

薬物療法

くすりでがんを治す・癒す！

薬物療法とは？

お薬(抗がん剤)を使ったがん治療です。薬物療法は単独で行われる場合もあれば、病気によっては手術や放射線治療と組み合わせて用いることで更に効果的となることがあります。従来の薬剤に加えて、がん細胞の特徴を狙い撃ちする分子標的薬(アバスチン、アービタックス、ハーセプチン、リツキシサン)、免疫のブレーキを外して自分の免疫力でがんを治療する免疫チェックポイント阻害剤(オプジーボ、キイトルーダ)などが次々と開発され一層効果を期待できるようになりました。

薬物療法を始める前に

抗がん剤など薬物療法を始めることが決まったら必ず

①がん専門薬剤師から薬の効用や副作用の説明があります。

ご自分の薬のこと、その薬にはどんな副作用があるのか、詳しく聞くことができます。

これから自分の身に起こることの大まかな予測ができるようになります。

②看護師から日常生活の注意点について説明があります。

使用する薬により副作用の現れ方は変わります。通院で治療を行っても日常生活と両立できるように、副作用に対処する方法を聞くことができます。

薬物療法を始めてからも

いつでもご相談ください。
がん専門薬剤師(P5)や
看護師がお話をお聞きます。



治療のあと
変わったこと
ありませんでしたか。

副作用が心配ですか？

ご安心ください。治療法別に副作用の出現パターンは分かっていますし、その対策は日々進歩しています。例えば、吐き気が強いとされる治療を受けても、通常の実行を行えば吐き続けるようなことは滅多にありません。それでも症状が起きた場合には、ストレス、食事、睡眠、排便習慣など吐き気に影響する状況を主に医師、看護師、薬剤師で見直し、できるだけ症状が軽くなるように取り組みます。他の副作用についても同じようにチームとして対処します。

がん遺伝子パネル検査が保険適用となり、治療の可能性が広がりました。すべての患者さんにあてはまるとは限らないので、御希望の方は主治医に御相談ください。

がん医療センター長
血液・腫瘍内科

河合 泰一



治療費のことが心配ですか？

最近のお薬は大変高額になっており、お支払いの段階で「びっくりした」というお話を伺う事が多くなりました。高額な医療費に対する公的な制度を上手く利用してください。詳しくは、がん相談支援センターにご相談ください。(P2)

外来治療をご存じでしたか？

副作用の対処が進歩したこともあり、治療を通院で行い日常生活と両立できる方が多くなっています。当院では抗がん剤に精通した専従のスタッフが配置され、安全で快適な治療を受けていただける十分な体制になっています。抗がん剤は薬剤師が無菌調製し、実際に投与されるまでに何重にもチェックしています。

心配なことがありましたら

治療中はもちろん帰宅後も快適に過ごせるよう、外来化学療法室では、副作用への対処や電話相談を行っています。どんな些細なことでもお気軽にご相談ください。

外来化学療法室



読書灯



おひとりずつTVがあります(無料)



点滴の時に利用するベッド。
広々とした空間でプライバシーを守ります。



リクライニングはリモコンで



次世代型の放射線治療が始まりました

福井県立病院では平成28年4月に「放射線治療棟」をがん医療センターに近く増設することで、がん医療センターとしての連携を強めてきました。

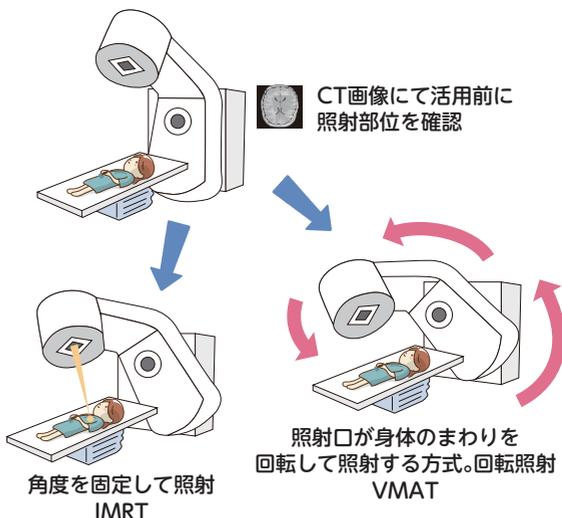
また、本院の放射線治療の特徴は、世界でも広く使われている“True Beam：アメリカVarian社製”を導入したことにより、短時間で高精度なVMAT治療（回転型強度変調放射線治療）を行うことができます。



VMAT治療（回転型強度変調放射線治療）とは

放射線治療では、一般的に照射線量が多くなれば、治療効果も高くなると考えられています。しかし、これまでの治療では同時に病巣周辺の正常な臓器にも照射されてしまい、合併症（嚔下痛、肺炎、腸炎など）の頻度も高くなるため、高線量の照射は困難でした。

IMRT（強度変調放射線治療）は、がん病巣により強い放射線を当てつつ、周囲の正常な臓器への照射を減らし、合併症を抑えることが可能な理想的な治療法の一つです。これは我々が目指していた新しい放射線治療の1つで、北陸では福井県立病院が最初に開始し、今年で15年以上になります。現在その進化形と言われるVMAT（回転型強度変調放射線治療）を用い、脳、頭頸部、腹部（肝臓や脾臓など）、骨盤腔（子宮がんなど）、肺がん、食道がんなど多くの疾患で積極的に高精度治療を行っています。



放射線治療部門では、がん患者さんのライフスタイルに適した治療の手助けやがんを治すための精密放射線治療をお受けいただけます。

「緩和照射」に積極的に対応

緩和的放射線治療とは痛みをはじめとする身体症状の改善やQOL（生活の質）の向上を目的として行われる放射線治療のことをいいます。もちろん今ある症状だけでなく、今後起こりうる症状についての対応（疼痛や骨折・麻痺の予防など）も含まれます。福井県立病院では「VMATを用いた高精度緩和照射」を積極的に行い、負担を軽減しつつより長期に腫瘍を制御し苦痛となる症状を緩和・予防できることを目指しています。

とくに、放射線治療により早期の脳転移（2cm未満）は80-90%が制御可能となり、また、骨への転移による痛みは約60～90%の症例で痛みの緩和が期待できます。放射線治療は治療と仕事・生活の両立に適しており、個々のライフスタイルに最適ながん治療を選択する手助けができます。

放射線治療の流れ

- ① 専用の固定具作成（10分程度）。
- ② 固定具作成後、実際の治療体位で治療用のCTを撮影します（10～20分程度）。
- ③ 看護師から日常生活の注意点や日々の放射線治療時の注意事項（蓄尿や絶飲食、来院時間の調整など）の説明を行います。
- ④ 治療開始

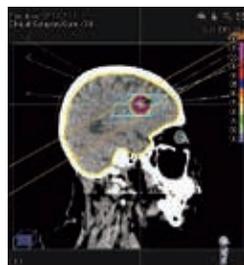
治療内容により照射の回数が変わります。

放射線治療の合併症は照射部位にのみ起こります。

多くは治療開始後2～3週程度で徐々に出現してくることが多いです。

例：皮膚炎、咽頭炎、食道炎、腸炎、膀胱炎など

家事や仕事など治療と両立できるようにできる限り調整させていただきますので何か気になることがありましたらお気軽にご相談ください。



線量分布図

どこにどれくらい照射するか治療計画を立てます



専用の固定具を使用して照射
照射範囲は赤印
(写真は頭頸部用)

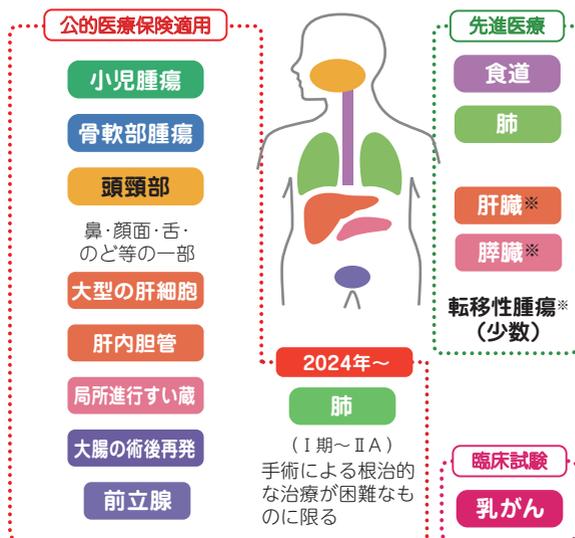
放射線照射は1日1回、平日（月～金）に行います
1回の治療時間は15～20分程度です
（位置合わせ10～15分、照射時間1～2分程度）



陽子線治療ができるがん、できないがん

陽子線治療は放射線治療の一種で、局所のがんを集中的に治療する局所治療法の1つです（P8）。このため一塊になっているがんは治療できますが、全身に広がるがんや不規則に動く臓器のがん（胃がんや大腸がん）、転移の多いがんや白血病などは治療ができません。

〈陽子線治療の対象となる主ながん〉



〈対象にならないがん〉

- ・白血病
- ・胃
- ・大腸※
- ・転移の多いがん※
- ・すでに放射線治療を受けた部位のがん

※陽子線の治療適応(対象)かどうかは、主治医または陽子線がん治療センター相談専用ダイヤルまでお問い合わせください。



陽子線で治療ができるがん

全部で9つのがんが陽子線治療の公的保険適用となっています

「小児がん」から始まった陽子線治療の公的保険適用は、その適用が広がり、現在9つのがんで使用可能(公的保険適用)となっています(上図参照)。その他のがんは、現在「高度先進医療」として治療を行っていますが、近年、多くのがんが陽子線治療の有用性が明らかになってきており、公的保険の適用拡大が期待されています。

乳がん臨床試験

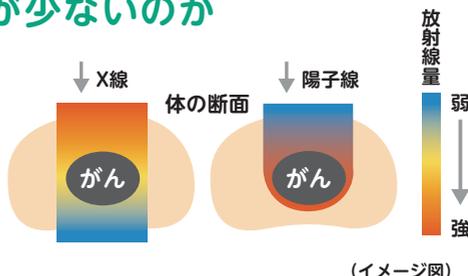
現在、陽子線を用いた乳がん治療の臨床試験を行っています。乳がんに対する陽子線治療を希望され、条件を満たした場合には、陽子線治療にかかる費用は病院で負担しますので、無料でお受けいただくことができます。

陽子線治療はがんに強く効き体にやさしい「夢の放射線治療」と呼ばれていますが、近年その有用性が認められ、保険適用が増えています。そして、今後さらなる保険適用拡大が期待される治療法です。

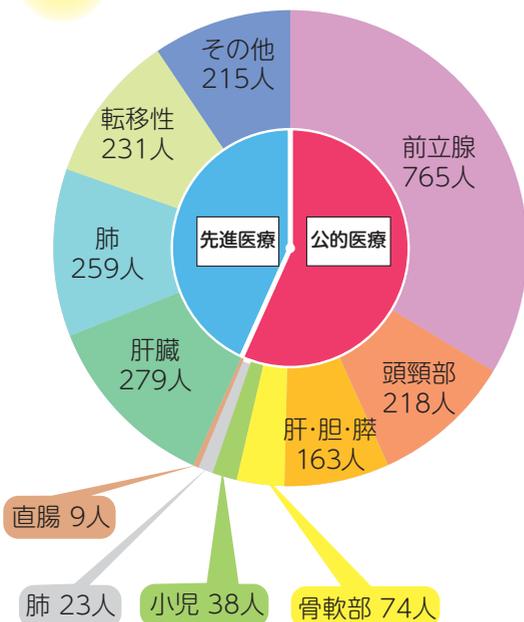
なぜ陽子線治療は副作用が少ないのか

多くの施設で行われている放射線治療はX線を用いています。照射されたX線は病巣を通過し、からだを突き抜けます。そのためより強くがん病巣にX線をあてようとすると、周りの臓器に副作用(有害事象)が出てしまいます。多くの病院では副作用を減らすため、IMRT(強度変調放射線治療)など複雑な照射法を用いていますが、それでも周囲臓器にX線をあてずにおくことはできません。

これに対し陽子線治療で使用する陽子線は、ある深さで線量がピークとなり、その直後で完全に停止してしまいます。このため陽子線治療では陽子線を副作用が出そうな臓器の手前で止め、重要臓器を守りながらがんの治療を行う事が可能となります。このため陽子線治療は「がんに強く効き、体にやさしい放射線治療」と言われています。



当センターの治療実績



●陽子線治療の話を知りたいとき 相談専用ダイヤル

TEL 0776-57-2981 へ
お電話ください。

●陽子線治療のセカンドオピニオンを 希望される場合

主治医へご相談ください。
→主治医より「入退院支援センター」
を通し、お申し込みいただけます。

●陽子線治療を希望されるとき

主治医に「チェックシート*」を記入
いただき、かかりつけ医療機関から、
陽子線がん治療センターへ
FAX 0776-57-2987 を
お願いいたします。
→陽子線治療ができるかのお返事を
すぐに送らせていただきます。

※「チェックシート」はホームページ
やパンフレットにありますので、
印刷してお使い下さい。

がんゲノム医療

～がんの個性に基づいての治療～

HPはこちら



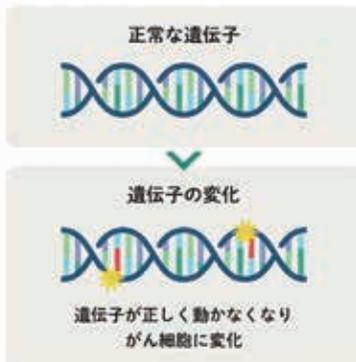
がんの個性
(遺伝子変化)
から治療を探
しましょう

がん医療
センター長
血液・腫瘍内科
河合 泰一



遺伝子変化とがん化

遺伝子は人の体の細胞が正しく働くための設計図(ゲノム)の一部です。遺伝子は1つの細胞におよそ2万2千個存在しています。遺伝子に変化がおこると遺伝子は正しく働かなくなることがあります。正しく働かなくなった遺伝子が蓄積した細胞から「がん」が発症します。正しく働かなくなった遺伝子がわかれば、これを狙い撃ちして治療する(分子標的療法P11)ことが期待できます。



C-CATホームページより引用

遺伝子パネル検査 ～同じがんでも患者さんごとに大きな違い～

2019年から、100個以上の遺伝子に生じている変化を一度に調べる事ができる遺伝子パネル検査が保険適用になりました。

この検査を行ってみると、同じがんでも患者さんごとに変化している遺伝子には大きな違いのあることがわかるようになりました。

これまでは「肺がん」「胃がん」など臓器別に行われていた治療が、がんの個性に基づいて治療(がんゲノム医療)できる時代になりました。

対象となる患者さん

まず、患者さんには臓器別に行われている標準治療*を受けていただきます。標準治療が継続できなくなりそうになった時点で遺伝子パネル検査を受けていただきます。

(※標準治療：科学的根拠に基づいた、現在利用できる最良の治療)

検査の弱点

これまでに採取されたがん組織を利用しますが、組織の損傷が大きいと検査ができないことがあります。このような場合には再度組織を採取するか、採血による検査で代用します。

治療へのハードル

遺伝子パネル検査の結果に基づいた治療を実際に受けていただくことができるのは、実は検査を受けていただいた方のおよそ1割です。治療に結びつく可能性は高いのですが、遺伝子パネル検査の結果から分子標的療法を行い劇的な効果が得られた患者さんもいます。希望をもって検査を受けていただきたいと思います。

遺伝外来

HPはこちら



遺伝のことでご不明な点や相談したいことがございましたらお気軽にお声がけください。

外科
主任医長

大田 浩司



～体質を知って健康管理～

がんの一部は遺伝(持って生まれた体質)が原因といわれています

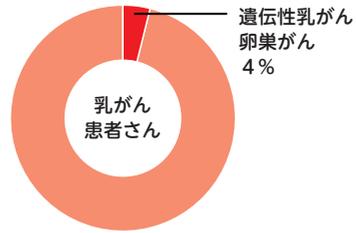
がんの発生には、食事や生活様式など環境の影響が大きく関係しております。一方、がんの一部(約5%)は持って生まれた体質で発症することが分かっています。

遺伝するがん(遺伝性腫瘍)の特徴※

- 同じ種類のがんにかかった血縁者が複数人いる
- 通常よりも若くして発症している
- お一人で複数の異なるがんにかかっている
- かかったがんのタイプに特徴がある
- 両側の臓器(乳房、腎臓、眼など)に同時にしくは異なる時期にがんを発症している

※上記に該当する場合でも、必ずしも遺伝性というわけではございません。

例：2011年に米国ハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが遺伝性乳癌卵巣癌症候群であることを公表し、がんの一部は遺伝することが知られるようになりました。



遺伝外来での診療

遺伝外来では、遺伝の専門医と専属の看護師が「**遺伝カウンセリング**」を行い、ご本人や血縁者の不安、悩みに対し心理的にサポートし、また社会的なサポートも行います。

家族歴をお聞きし、**家系図(右下図)**を作成して遺伝性の可能性があるか考えます。

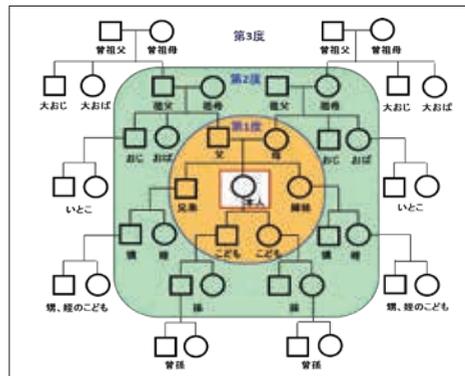
遺伝外来では、主に血液を用いて「**遺伝学的検査**」を実施し、遺伝性かどうかを判定することが可能です。

がんの種類によっては、積極的に検査を行い、**定期的な検査や場合によっては予防的な手術**などが効果的な場合がありますので十分な情報を提供します。

※疾患によっては、保険診療として受検できる場合がありますが、一部自費の検査となります。



個室にて行います



家系図

出典：一般社団法人日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構(johboc.jp)



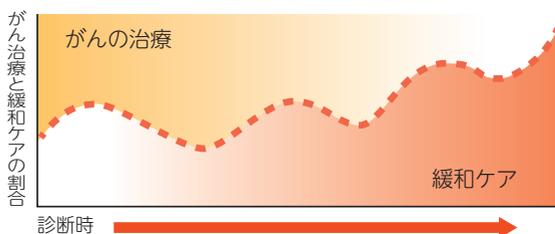


緩和ケアって何ですか？

緩和ケアは、がんの治療ができなくなってから始めるものではありません。**がんと診断された時から始まります。**重い病気を抱える患者さんとそのご家族の身体や心の辛さをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアのことです。患者さんを支えるための行為すべてを緩和ケアといいます。

緩和ケアとがん治療のチャート

がん後量に伴う苦痛(吐き気、食欲低下、痛みなど)の状況に応じて、緩和ケアはがん治療とあわせて行われます。



がんと診断されたときから緩和ケア
緩和ケアは、「終わりの医療」ではありません

緩和ケア.netから引用し一部改変

緩和ケアチームの支援

相談をご希望される際には、外来・病棟の医師、看護師にお申し出ください。

緩和ケアを専門的に提供している医師等で構成されたチームが支援します。身体やところが辛いときには、いつでもご相談ください。

様々な場面で緩和ケアが必要



がんの診療時などの気持ち



治療中に生じるつらい症状



経済的負担、家族の問題など



自宅での過ごし方など

緩和ケアセンターでは

- 通院の患者さんに対し苦痛のスクリーニング(緩和ケア問診票)を活用し、苦痛緩和のために緩和ケアチームが連携し対応します。
- 退院後も緩和ケアが受けられるよう地域との連携を図ります。
- 緩和ケア病床を確保し、24時間緊急入院ができる体制があります。
- 専門的緩和ケアを提供します。

- ・緩和ケア外来…緩和ケア科医師(緩和医療認定医)による診察
(毎週月・水・金曜日 要予約)
- ・がん看護外来…がん看護専門看護師・がん関連認定看護師による相談(P5)



がん看護外来

緩和ケア病棟にはどのような時に入院できますか？

- 痛みや不安、だるさ、眠れないなど苦痛のある時、入院ができます。
(症状が楽になったら退院できます)



HPIはこちら

手続き ① 院外からのご紹介の方は、事前に予約をした上で、紹介状を持って該当する診療科を受診してください。

② 当院主治医が入棟申込みを記入します。

③ 入棟申込み後、患者さんやご家族に見学をしていただきます。

④ 入棟申込みに対して、緩和ケア病棟入棟検討会を行い、入棟日時を連絡します。

※ 希望ベッドの空き状況により、申込みから入院まで2週間から1か月程度かかることがあります。

待機期間を考慮して、早めの受診(入棟申し込み)をおすすめします。

(費用については、がん相談支援センターにお問い合わせください・P2)

緩和ケア病棟は他の病棟とどう違うのですか？

- 身体と心の苦痛緩和に力を注いでいます。
- 気分を和らげ、心地よく感じていただけるよう、入浴・アロマセラピー・リフレクソロジーなどを取り入れています。
- 少しでも日常生活の中での楽しみや変化を感じられるよう、ボランティアの方が生花を飾ったり、お茶の時間を提供しています



緩和ケア病棟内にある庭



ラウンジで演奏会を開催

日ごろから食事と運動が大切

がんのリハビリテーションとは

HPはこちら



当院は、入院患者さんを対象に、急性期から365日体制でリハビリを実施しています。また、緩和ケア病棟では、より豊かな入院生活が送れるよう多職種で協働して支援を行っています。



リハビリテーション室長 小澤 純一

患者さんの生活機能と生活の質の改善のために、がんとその治療による体への影響を改善して患者さんに最大限の身体的、社会的、心理的、職業的活動を実現させることを目的としています。

たとえばどんなことをするの？

薬物療法・放射線治療に伴う体力低下のリハビリテーション

長期の治療で体力が落ちないように、筋力トレーニングや有酸素運動を行います。治療中は体調不良となることもありますが、その日の調子に合わせ無理のない範囲で運動を行います。



体力維持目的の有酸素運動

(胃・肺・腸など)がん切除手術後の呼吸リハビリテーション

理学療法士が、術後の肺炎など合併症を予防するため呼吸筋のトレーニングや咳の練習を手術前から行います。

また、体力が低下しないように器機を使った筋力トレーニングや有酸素運動を行います。

頭頸部がん術後の嚥下(飲み込み)や構音(言葉を話す)のリハビリテーション

言語聴覚士や看護師が、術後の嚥下(飲み込み)障害や構音(言葉を話す)障害のリハビリテーションを行います。

脳・脊髄腫瘍による片麻痺や四肢麻痺のリハビリテーション

手足の運動麻痺による関節の拘縮(こわばり)を防ぎ、麻痺を改善するための運動療法や物理療法、基本的な動作や歩行の練習など行います。

乳がん切除手術の関節拘縮(こわばり)やリンパ浮腫のリハビリテーション

術後に腕が動かしにくくなるため、棒体操や滑車運動を行います。

また、作業療法士とリンパドレナージを一緒に練習し、退院後にリンパ浮腫の早期発見ができるようにします。



乳がんリンパドレナージ練習

緩和ケアでのリハビリテーション

患者さんの疼痛や苦痛の程度に合わせてながら、可能な範囲でリラクゼーションや動作の練習を行います。

自宅退院を目標とする場合には家族に日常生活の介助を指導したり、介護サービス、福祉機器のアドバイスなどを行います。

日ごろから食事と運動が大切

がん治療中の 食事と栄養

HPはこちら



食事によって、治療前の免疫力を高め、治療中の副作用時にも栄養が摂れるようサポートしています。

薬物療法や放射線治療を行うことで食欲不振などの副作用を生じることがあります。

食事が摂れない状態が続くことで、栄養状態が悪くなり、治療の効果を十分に得られない、回復に時間がかかるなどの影響が出ることがあります。治療前から栄養状態を少しでも良くしておくことで、このような副作用による負担を軽減することにつながります。また、副作用が生じた場合でも、状況に合わせた食事を摂ることで栄養状態を維持することができます。

治療を始める前の食事の工夫

ご自身の体力や免疫力を良い状態にするためには、バランスのとれた食事が大切です。

栄養相談では、実際に召し上がっている食事内容をお伺いしながら必要な栄養素を整えていけるようにサポートを行っています。

また、希望のある方には、体成分分析装置「InBody」を用いて、筋肉量や体脂肪量の測定を行っています。筋肉量や体脂肪量は栄養状態を示す大切な指標です。定期的に測定を行い、食事や日々の活動内容が身体の良い状態につながるようにお話させていただきます。



治療中の食事についてお悩みの方に…

治療中の副作用としてもっとも多いものに食欲不振があります。これまでに同様の症状があった方にも、食がすすむ食べ方や食品、食欲がわく調理方法、手軽にとれる補助食品の紹介など、生活習慣や嗜好に応じた食事を提案いたします。治療中の食事での不安や疑問がある際にはご相談ください。

がん医療センターでは、管理栄養士が午前中に常駐し、食事・栄養の相談に応じています。入院中や外来で治療中の方についても対応させていただきます。

ご希望の際は、主治医・看護師・がん相談支援センター相談員にお申し出ください。



がん治療中によくある訴え(食事に関すること)

- 食欲が出ません。
- 吐き気がして食べられません。
- 一度にたくさんの量の食事が食べられません。
- 食べ物の好みが変わりました。好きだったものが食べたくなくなりました。
- 食べ物の味が変わったように感じます。
- 口内炎が出来て、痛くて食事ができません。
- 白血球が減っていると言われましたが、食事は何を気を付けたらいいですか？
- 少しの量で栄養価が高い食品はありますか？

これらのお悩みの解決に、お気軽にご相談ください。

小児がん

HPIはこちら



小児の陽子線治療は小児科入院で全身管理を行います。

小児科
主任医長
谷口 義弘



小児がんとは

小児がんは**15歳以下の小児に発症する腫瘍の総称**で約1万人に1人の発生頻度です。成人の場合と異なり、小児がんの多くは先天的(生まれつきの体質)なものと言われています。治療はがんの種類に応じて、手術療法、薬物療法、放射線治療、造血幹細胞移植を組み合わせて行いますが、医学の進歩に応じて治癒率が上昇し約7～8割の方が治癒可能な時代となりました。

小児がんの特徴

小児がんでは白血病やリンパ腫といった血液系の腫瘍が全体の約4割を占めています。脳腫瘍が15%と続き、神経芽腫、網膜芽細胞腫、腎芽腫、肝芽腫、骨軟部腫瘍、胚細胞性(生殖細胞系)腫瘍などが約3～7%を占めます。胎児期の細胞由来や、遺伝的な原因によるものは生後～5歳までに発症することが多くなっています。



小児がんに関する情報
(ganjoho.jp)

小児がんの治療と問題点

小児では成人に比べてより強力な治療を行います。治療成績は良好ですが、長期入院が必要になるなど苦痛も多く、家族のサポートが重要です。治療成績の向上に伴い長期生存が可能になりましたが、晩期障害(後遺合併症)が問題になり、晩期障害を軽減する工夫が続けられています。

当院での小児がん治療：陽子線治療について(P15)

小児がんはまれな疾患のため、治療施設を集約化し連携により治療レベルを上げる環境整備が進んでいます。当院は小児がん拠点病院の一つである京都大学医学部附属病院と提携し、陽子線治療の小児がん連携病院に指定されました。当院小児科、陽子線がん治療センターは、福井大学医学部附属病院の協力を得て、3者カンファレンスを行いながら協力しつつ福井県内にとどまらず北陸を中心とした他県の患者様の治療も実施しています。陽子線治療は、周囲組織への影響を少なくすることが期待でき、公的医療保険の対象になっています。

当院での小児がん長期フォローアップ

小児がんは治療後の経過観察(治療後の経時的診察)が特に重要で、がんの診察に加え、児の成長や発育に重要な内分泌補充療法などの治療も必須です。当院には小児内分泌の専門医がおり、小児内分泌疾患に関するフォローも受けられる病院として、総合的にがん患者さんが安心して治療が受けられるよう努力しています。

福井県立病院

都道府県がん診療連携拠点病院に指定

福井県における中心がん診療機能を担う医療機関として、厚生労働省より県内で唯一、都道府県がん診療連携拠点病院に指定されています。

専門スタッフの配置、集学的治療の実施、緩和医療やセカンドオピニオンの提供、地域の病院や診療所との連携体制の構築などに取り組んでいます。



福井県HP
「国指定の
がん診療連
携拠点病院
等について」

がんゲノム医療連携病院に選定

がんゲノム医療拠点病院である金沢大学附属病院（石川県）と連携してエキスパートパネルを行うなど、がんゲノム医療（P17）を提供しています。

小児がん連携病院に指定

国立成育医療研究センター 近畿ブロック
(ncchd.go.jp)

HPはこちら

小児がん拠点病院である京都大学医学部附属病院と連携し特定のがん種等（陽子線治療）の診療を行う小児がん連携病院に指定されています。



日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設

遺伝性乳癌卵巣癌およびその疑いのある患者・家族の診療体制が整備されています（P18）。

HPはこちら



国立がん研究センター発行「がんの冊子」

病気や治療についてわかりやすく解説した「がんの冊子」です。インターネットで無料で閲覧・印刷することができます。

HPはこちら



がん情報サービス がんの冊子

検索



● 福井県立病院に設置しています（3か所）

- ・ 本棟 エスカレーター下
- ・ がん医療センター待合所
- ・ がん医療センター待合1

ご自由
にお持ち帰
り
ください





A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, intended for handwriting practice.





陽子線がん治療センター

相談専用ダイヤル TEL.0776-57-2981

館内配置図



1階出入口



こちらから出入りできます



福井県立病院

がん相談支援センター

0776-54-5151 [内線3100]

〒910-8526 福井市四ツ井2丁目8-1

E-mail : hp-gansien@pref.fukui.lg.jp

バス JR福井駅西口①番のりばから乗車約15分
「県立病院」下車

電車 えちぜん鉄道福井口駅から
徒歩10分

車 JR福井駅東口から5分